

平成29年度 酒田西高校定時制の課程 学校評価表 (自己評価・学校関係者評価)

| 教育目標 | | 重点目標 | | 達成度 | |
|--|---------------------------|---|--|--|--|
| 1 感性豊かで思いやりのある心を持つ人間を育成する。 2 社会において豊かに生きることができる基礎的な能力をもった人間を育成する。 3 逞しい気力と体力を育て、地域社会に貢献できる人間を育成する。 | | 1 基礎学力の定着・向上と、「よりよく生きるための力になる勉強」という視点からの学習指導 2 人間関係形成能力の育成 3 安心・安全な学校づくり 4 昼間定時制移行に向けた教育計画書の検討 | | A 達成している B おおむね達成している C あまり達成していない D 達成していない | |
| Plan | Do | Check | Action | 学校関係者評価 | 総括 |
| 教育目標・方針・重点目標実現に向けた取組課題・具体的方策 | 目標の達成状況 達成にむけた取組み状況と分析 | 評価 | 成果と課題 | 意見・要望・評価等 | |
| 1 基礎学力の定着・向上 | 指導と評価の一体化を図った授業の推進 | B | ○昼間定時制での新カリキュラムを完成できた。 ・新カリで新たに設定された科目の目標設定、シラバス、指導計画ならびに評価方法の検討 ・昼間定時に向けた授業改善 | ○多様な生徒に適合できる教育を引き続き実践していただきたい。 | ○多様な生徒が入学してくる状況を踏まえ、生徒が必要とする支援や、生徒に合った教材を研究し基礎学力向上を更に進展させる必要がある。 ○チームティーチングの方法や探求型の学習を研究して日頃の授業に取り入れていく必要がある。 |
| | 2 生徒一人ひとりの能力に応じた指導の充実 | B | ○きめ細かな検討を重ね生徒一人一人に合った指導ができた。 ・チームティーチングの教員の負担・生徒への学習効果を踏まえた対応を検討 ○「生徒の授業評価」を実施して各教科指導のいい面を確認し、改善すべき点があればその指針となるようにまとめ教員にフィードバックすることで効果を確保できた。 ・授業評価の集計結果踏まえ、研修会や職員会議の情報交換を有効に利用しながら学校関係者や評価委員会の意見を参考に改善策を検討 | | |
| | 3 「生徒の授業評価」等による授業の改善 | B | ・「生徒の授業評価」を実施することができ各先生方にフィードバックすることができた。 ・2回目は2月下旬に実施予定である。 | | |
| 2 人間関係形成能力の育成 | 4 コミュニケーション能力・自己表現力の育成 | B | ・生徒が、自己表現したり、相手とのコミュニケーション能力を高めるための場を工夫して育成している。 ・日頃の活動や指導においても意識してコミュニケーション能力向上に努めた。 | ○年度当初全職員でありさつや服装指導などを行い、効果が上がっているようなので引き続き継続していただきたい。 | ○1年次生が早く学校生活に慣れるよう年度初めに手厚い指導が必要である。 ○部活動の活性化により、生徒の体力・健康増進を図り出席率の向上が必要である。 ○昼間定時制への移行で機会が増える外部とのコミュニケーションの機会を活かす必要がある。 |
| | 5 学校行事、生徒会行事、部活動の充実 | B | ・野外活動、文化祭、生活体験発表、部活動などは生徒の状況に合わせ、生徒の成長を促すことができるように企画して成功に導いた。 ・定通総体では、職員全員が指導に取り組み昨年度より多くの入賞と全国大会出場を勝ち取った。 | | |
| | 6 キャリア教育を踏まえた指導の充実 | B | ・授業や学校行事、生徒会行事、LHRや総合的な学習の時間等を総動員してキャリア教育全体構想に掲げた目標に向けた取り組みを実施し効果をあげている。 ・全校生徒による学校見学・体験を実施し、コミュニケーション能力向上や実生活に役立つものとなった。 ・先輩からの講話や進学指導における補修、全日制とタイアップした模試の実施により多くのキャリアが身に付いた。 | | |
| 3 安心安全な学校づくり | 7 生徒理解を踏まえた指導の充実 | B | ・年次の教員を中心として、生徒の動向確認と連絡・報告の徹底に努めた。また、就労や修学への支援を生徒の実態を踏まえながら個別に行いスムーズな学校生活を送ることができた。 ・定例職員会議や始業時打ち合わせ時における情報交換を実施して生徒理解が深まった。 | ○夜間定時制では給食の時間に教員と生徒のコミュニケーションが取れたが、昼間定時制となった場合、その時間が確保できないことが考えられる。今後も生徒とのコミュニケーション意識を取り組んでいきたい。 | ○保護者との連携を密にしてより効果的な指導方法を確立する必要がある。 ○給食の時間がなくなるため、生徒とのコミュニケーションの機会を確保する方策の検討が必要である。 ○多様な生徒が在籍する中での安全管理を徹底する必要がある。 |
| | 8 特別支援教育にかかわる研修の充実 | B | ・定例職員会議での情報交換、SCとの連携により生徒理解を深めた。 ・校内研修会(生徒理解)(特別支援)を開催すると共に、コーディネーターを関係の研修会に派遣した。 ・支援を要する生徒と関わっていたドクターの話を直接聞くなど、より多くの活動から生徒理解につなげた。 | | |
| | 9 食育と健康教育の推進 | A | ・昨年に引き続き、野菜を栽培し、収穫した野菜を全校生徒・職員で調理した。また、「給食だより」や食事時の「ひとくちメモ」の発行など、食に対する関心を高め成果をあげた。 ・日常的な生徒の健康観察はもとより、学校医・学校歯科医による検診時の保健指導や外部講師による保健講話を実施するなど、健康意識を高めた。 | | |
| | 10 危機回避能力を高める指導の推進 | B | ・5月に交通講話、車両点検、地震・津波を想定した防災訓練を実施した。 ・毎月の安全点検、薬物乱用防止教室(11月)、防災訓練(火災)などの実施 | | |
| | 11 説明責任の完遂と保護者の理解・協力 | B | ・担当が電話や通信等での連絡・報告したり、家庭訪問や懇談会を計画するなどして、保護者との共通理解を図っている。 ・PTA全体会、PTA広報誌、学校パンフレット、学校HP、学校通信(きらり)、学校紹介雑誌等を通じて情報発信を行った。 | | |
| 12 昼間定時制移行に向けた教育計画書の検討 | B | ○昼間定時制移行への職員研修会を開催するなどスムーズな移行に向けた取り組みができた。 ・平成30年度年間行事予定表を各担当で吟味しながら完成させ、改善が必要な部分を検討する。 | ○定時制に来る生徒のニーズが変わってきている。多様な生徒に対応できるよう取り組んでいた。 | ○昼間定時制移行の過程で短いスパンでPDCAサイクルをまわす必要がある。 | |
| 自己評価及び学校関係者評価の改善点 | | 今年度は、夜間定時制から昼間定時制への移行の年度として、教育課程の編成や校内規定の改善など教員同士で話し合いの場が多く持った。このことにより学校運営に有利に働き、高い評価となった。 学校関係者評価の改善点としては、夜間定時制での評価、昼間定時制での評価と異なる部分があれば抽出し改善していきたい。 | | | |